

令和初の「新年交賀会」開催 今年もよろしくお願ひします!

1月5日に、市内のトップを切り「大川目町新年交賀会」が市民センターで開催され、参加者約40名が新年を祝い、お互いの懇親を深めました。

最初に、主催者のまちづくり協議会の小倉会長から、「去年は災害の多い年だった。今年は安全安心のまちづくり、コミュニティ形成を目指したい。また、子年は十二支の始まり、心機一転で頑張りたい」と力強いあいさつがありました。続いて、ご来賓の皆様方からのあいさつ、前市議山口健一さんの音頭で乾杯が行われ懇親に移りました。雪景色の中で新年を迎えた今年、清冽な雰囲気の下で参加者一同、和やかに今年への期待を語り合いました。

今年こそは平穏な年であることを願うとともに、皆様のご多幸を祈念申し上げます。



あいさつをする遠藤市長とご来賓の皆様方



前市議の山口健一さんによる乾杯の音頭

初めての試み! 童謡・唱歌を歌う会

1月20日(月)に、市民センターの初めての試みとして「童謡・唱歌を歌う会」を開催、参加者が楽しく歌声を響かせました。

サークル出前講座として指導いただいた「久慈童謡を歌う会」からは、指揮者や指導者を含

めなんと7名の皆様に集まっていたいただき、指導を受けながら一緒に歌を歌うという形で進められました。内容は発声練習から合唱、輪唱、同時合唱、脳トレまでを含む多岐にわたるものでしたが、皆さんが知っている懐かしい歌が多く楽しくリフレッシュすることができました。

冬季の事業として継続できればと思いました。



あいさつ代わりの合唱! 「久慈童謡を歌う会」の皆さん



向かい合って一緒に歌いました。指揮(右)は代表の中塚さん



10名の参加者のみなさん。合唱の前には、歌の歴史や歌詞の内容等も詳しく学びました

今年も充実！『小正月行事』 大川目の「昔」を体験しました！

1月11日（土）に小正月行事体験が市民センターで行われ、大川目小の児童23名、町老連他の関係者37名が参加、大川目町に伝わる伝統行事等を体験しました。

今年も昨年と同様に、郷土の歌人砂子彦三郎が遺した短歌をもとに構成された、昔の小正月行事についてのお話を、スライドや現物を通して視聴するとともに、ミズキ飾りや餅つき等の体験、会食までできるという格調高

く充実した内容となりました。

子どもたちも、スポ少「わかば」を中心とした積極的な参加と町老連の皆様のご指導・ご協力により、楽しく盛大に、またおいしい小正月を体験することができました。

午後からは、恒例となった久保田名人によるヨーヨーの指導で高度な技を習得、賞品もゲット、楽しく過ごしました。町老連の皆様、久保田様、大変ありがとうございました。



突如として現れた2匹の鬼！「ナマミタクリ」のお話の最中でした



餅つきは女子が積極的！



カルタの読み手は伊藤さんに たて型のきねも初登場！



町老連のみなさんが積極的？



会食（餅もけんちん汁もおいしかったです）



アトラクションのヨーヨー。（学年ごとに技の対決をしました）

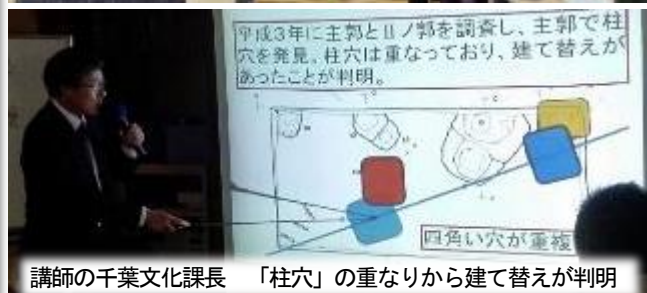
郷土の歴史講座

「一から学ぶ久慈城の歴史②」

1月24日に、2回目となる「一から学ぶ久慈城の歴史」が開催され、参加者27名が久慈城の「構え（構造）」について学びました。

講座では、久慈城は平地との差が約40mで平山城に分類されること、梯郭式と呼ばれる構えであることを図や豊富な写真で詳しく解説していただきました。また、発掘調査による「柱穴」の発見とその重なりから、建物の存在とともに建て替えもあったことを知り、久慈城の史実に感銘を受けました。

※次回は2月21日（金）13:30からの開催です。



講師の千葉文化課長 「柱穴」の重なりから建て替えが判明

22回目の登場は、大川目小学校で郷土芸能の「剣舞」を指導する村田一治さんです。

村田さんと言えば、誰もが認めるお祭り男（失礼！）、過去の備前組の写真にはいつも前に座って写っている、また山車の運行では一番先頭を歩く、そんな強い印象を多くの方がお持ちであると思います。しかしまた、ちょっと違った一面も。それは、大川目小学校の運動会と備前の里・夏まつりで披露される「剣舞」の指導者でもあるということです。市民センターでは毎年8月に、夏まつりに向けて5・6年生対象の「剣舞伝承教室」が行われますが、その指導を務めるのが村田一治さんです。

取材は1月21日、仕事帰りの村田さんに市民センターに来ていただきました。（いつもの強面を感じさせるメガネがありません）

最初に剣舞のルーツについて聞いてみることに。

「大川目では150～60年になるのではないか。（ルーツは）田野畑と霜畑（念仏剣舞）が考えられるがよく分からない。いつか行って調べてみたい。子どもの頃は自分が踊っていたが、親が若かった頃は青年たちが踊っていた。なぎなたも今より長く、3日間も踊った」とのことでした。

次に、剣舞との今までの関りについて聞いてみました。

「（自分は）小学校5・6年から中学校3年までお盆に行く神明様のお祭りで踊った。その後は太鼓になり、下級生に教えた。28歳の時に地元に戻り、それから小学校に行き教えるようになったが、小さい頃からお祭りは好きだったので、お盆で帰った時は（地元の子どもたちに）教えていた。（近くの）故村田正次さんにも声をかけられたが、自然の成り行きでもあった」という話でした。指導のきっかけや理由も交えて教えていただきました。

今までの（指導での）思い出を聞いてみると、

「小学校で教えていると、“あっ、村田さんだ！”と声をかけてくれること」が一番、そしてまた、「大きくなってからも覚えていて声をかけてくれること」がうれしいと言います。しかし、と少し考え、「（地域では）子どもを集めるのが大変になってきた」と振り返ります。35、6年前から地域と同時進行で、学校でも剣舞に取り組むようになったということですが、その背景には少子化の影響があり、剣舞の舞台が学校に移っていったことが分かります。

当時の様子を詳しく聞いてみると、「学校の業間体育で取り入れて全校で練習、そして運動会で披露した」ということでした。「全校」という大変さについては、「まず6年生に教える。その6年生が下級生に教える（先生も習った）」ということでした。さらに、「最初に太鼓を教え、後で全校児童が踊る」というシステムで対応したところに工夫や苦勞がしのばれますが、村田さんは楽しそうに、懐かしそうに話します。運動会での全校児童による剣舞は、夏まつりとはまた違った形で、大人数の舞いが躍動感をもたらすとともに、低学年の舞うその姿は正装でないところに健気さ、可愛らしさを感じるのですが、それを遠くから見守る村田さんの姿（笑顔）が思い浮かびます。

指導で心がけてきたことについては、「元気よく、声を出して踊ること、踊りを大きく見せること」と、分かりやすく基本的なことが返ってきました。他にはと聞くと、「上から下まで本気になって（なぎなたを）振り下ろすこと」だと言います。毎年指導していることで、技術的な点は十分できているのでしょ

う。気持ちの部分や迫力という点を強調していました。ただ、夏に行われる市民センターでの指導では、途中で気合を入れるようなことはなく、見守ることが多いように見受けられました（でも、時間一杯回数をこなします）。

普段の生活についても聞いてみると、地元の建設会社に勤める会社員で、孫の顔を見るのが楽しみ、孫のためのジグゾーパズルを作るのが趣味という方でした。車好きでもあり、何と外国製のオープンカーも持っている（年金を貰うようになったら奥さんと旅行する予定）とのことでした。

最後に剣舞の今後について伺うと、

「（剣舞を）無くしたくない思いで学校に協力している。後世に伝えていきたい。ただ、子ども数が少なくなっているのが一番の気がかり」と言います。そして、「大人たちでやってみようという気もあるが・・・。山根では保存会で念仏剣舞を伝承している。そんな形が作れば」とも話します。さらに、「その昔には、剣舞には笛も鉦（かね）もあった。虎舞いも別な踊りがあったが伝承されていない」と危機感を募らせます。そんな思いが毎年の指導につながっていると同時に、子どもたちが後継者として成長し、伝承されることを願っているように感じられました。運動会、夏まつりでぜひご覧いただきたいと思います。

早く取材を引き受けていただき大変ありがとうございました。メガネをかけない優しい目に剣舞への愛が溢れているように感じました。



談笑する村田一治さん（市民センターにて）

交付金の使途(候補)決定!

1月23日に、まちづくり協議会の役員会が開催され、指定管理に伴う交付金の使途についての話し合いで、その候補が決まりました。

交付金は昨年度、ユニットハウスや脚長テーブル等の購入に使われましたが、今年度の使途はまだ未定。目的に合うものを3月末までに、しかも繰り越しは不可という制約があります。

話し合いは、まち協の役員12名が2つの班に分かれ、ワークショップ形式で行われました。進行や記録、助言役として市、やませデザイン会議、市民センターからも併せて6名が参加しました。使途の対象はハード(物)、ソフト(事業)を問わないということで、「おおかわめ未来

づくり計画書」の内容も視野に入れ、各班で3つずつ使途を提案、発表しました。

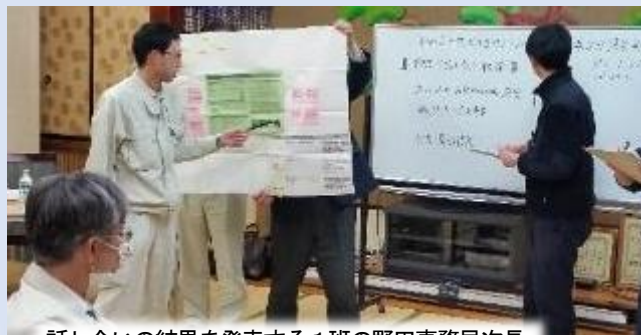
提案の共通点や優先度をまとめた結果、

- ①体育館の舞台の整備(幕・看板・音響等)
→危険な作業を避け、敬老会・郷土祭等で活用
- ②マラソンコース・パークゴルフ場への看板設置→意欲喚起、活用促進を図り町内パークゴルフ大会等の開催につなげる
- ③ホームページ「おおかわめの風」の運営
→久慈城の情報を発信するとともに、関係の深い鱒ヶ沢訪問、備前組の山車作りにつなげる

という3点が候補に決定しました。ただし、これらは①をメインに進めるということで、状況に応じて必要なものを検討し、取り入れていくこととなりました。



2つの班ごとに「地域づくり交付金」の使途を話し合いました



話し合いの結果を発表する1班の野田事務局次長

2月事業等のご案内

お問合せ・申し込み等は 大川目市民センターへ ☎55-3250

市民生涯学習のつどい 「昔っこ語り隊(大小3年生)」	スポーツ吹き矢
<p>大川目小学校の3年生が、市民センターで取り組んできた昔語りを「昔っこ語り隊」として披露します。応援よろしくお願ひします。</p> <p>1 日時 2月8(土) 9:30~</p> <p>2 場所 アンバーホール(大ホール)</p> <p>3 内容 昔語り(三人の怠け者、虫歯の大黒様、山口柿とどろぼう)</p> <p>4 その他 市民センター事業の成果(作品)や様子(写真)等も展示されますのでぜひご覧ください。</p>	<p>1 日時 2月19(水) 10:00~12:00</p> <p>2 場所 大川目市民センター</p> <p>3 定員 30名程度</p> <p>4 申込み 2月17日(月)までに</p> <p>5 その他 町老連を通して募集していますが、どなたでも参加が可能です。興味のある方はぜひご参加ください。</p>

2月定例 大川目・びぜんパークゴルフ大会

- 1 日時 2月16日(日) 9時集合 9時30分スタート
- 2 場所 大川目河川敷パークゴルフ場
- 3 申込み 事務局:伊藤まで ☎090-6682-5600

ただし、雪・雨の場合は中止です!

編集後記

雪不足がニュースになりますが、センターにはまだ去年の雪、そして季節外れの大雨が…。異常気象、地球温暖化が実感されます。グレタさんの言うことは大人と現代社会への痛烈な批判。理解できるがさて、自分にできることは?(T)

この寒い冬の時期に爬虫・両生類を探しに行きたい衝動に駆られています。去年探しに行けなかった反動だと思います。探したいのは「ジムグリ」や「モリアオガエル」など。春を待ち遠しく感じながら、写真や動画で我慢する日々を過ごしております。(M)

寒いからと体を動かさずにいたら、体がこり固まってくるのを感じたので、今年の東京オリンピックに便乗して何か運動を始めてみよう!と先日、決意表明をしました。細く長く続けられるようにほどほどに頑張ります。(N)